



記者会見 第49回ギャラクシー賞

ギャラクシー賞贈賞式のご案内

各部門入賞作品の解説

マイベストTV賞グランプリの発表

■日時 5月21日（月曜日）4：00～5：00PM（16:00-17:00）

■会場 ラジオ・テレビ記者会（NHK内）

■出席者（予定）

放送批評懇談会 専務理事 橋本隆（はしもと・たかし）

放送批評懇談会 選奨事業委員長 小田桐誠（おだぎり・まこと）

放送批評懇談会 テレビ部門委員長 上滝徹也（こうたき・てつや）

放送批評懇談会 ラジオ部門委員長 桜井聖子（さくらい・きよこ）

放送批評懇談会 CM部門委員長 五井千鶴子（ごい・ちずこ）

放送批評懇談会 報道活動部門委員長 碓井広義（うすい・ひろよし）

放送批評懇談会 マイベストTV賞プロジェクトリーダー 滝野俊一（たきの・としかず）

■会見内容

1. 第49回ギャラクシー賞贈賞式のご案内
2. テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の入賞作品解説
3. 志賀信夫賞（第3回）の紹介と解説
4. マイベストTV賞グランプリ（第6回）の発表
5. 質疑応答

■この件に関するお問合せ先

特定非営利活動法人/NPO放送批評懇談会

中島好登、高橋秀樹

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

Email kondankai@houkon.jp HP <http://www.houkon.jp>



各 位

NPO放送批評懇談会（担当：中島／高橋）
Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

第49回ギャラクシー賞贈賞式 取材・報道のお願い

平素より当会にはご理解、ご支援を賜り、ありがたく御礼申し上げます。
さて、来る6月4日、ギャラクシー賞贈賞式を行い、49年の歴史を誇る「ギャラクシー賞」のテレビ大賞、ラジオ大賞、CM大賞、報道活動大賞を決定・表彰いたします。
当日は個人賞、特別賞、DJパーソナリティ賞も表彰されます。
志賀信夫賞の贈賞、視聴者参加型のギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリの贈賞もございます。
ぜひご出席賜り、ご取材、ご紹介くださいますようお願い申し上げます。

- | |
|--|
| <p>■日時 2012年6月4日（月曜日）贈賞式16:30～18:30
取材受付開始15:15、取材開場15:30、開演16:30</p> <p>■会場 ウェスティンホテル東京<ギャラクシールーム>
東京都目黒区三田1-4-1（恵比寿ガーデンプレイス内）〒153-8580 Tel.03-5423-7000</p> <p>■出席予定
テレビ、ラジオ、CM、報道活動部門入賞作品関係者の皆さん
各部門とも、入賞作品の中から大賞、優秀賞、選奨が選ばれ、贈賞式で発表します
小泉今日子さん（テレビ部門個人賞）
木曜劇場「最後から二番目の恋」（フジテレビ）、連続ドラマW「贖罪」（WOWOW）の演技
吉田尚記さん（ラジオ部門DJパーソナリティ賞）
ニッポン放送「ミュ〜コミ+プラス」パーソナリティとして
・各部門の入賞作品は別紙一覧をご参照ください
・サプライズゲストが登場する場合があります</p> |
|--|

★取材要領は別紙をご覧ください。取材をご希望の場合は、必ず事前にお申込みください。

本件担当＝中島^{こと}好登、高橋秀樹

NPO／特定非営利活動法人 放送批評懇談会

〒160-0022 新宿区新宿 5-10-14 中村ビル2F Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510 kondankai@houkon.jp <http://www.houkon.jp>



第49回ギャラクシー賞 贈賞式 取材要領

2012年6月4日(月曜日)

ウェスティンホテル東京「ギャラクシールーム」

取材受付15:15、取材開場15:30、開演16:30

取材要領

- ギャラクシー賞贈賞式の取材をご希望の方は、申込書に必要事項をお書き込みのうえ、ファクスでお申し込みください。事前にお申込のない取材はお受けできません。
- スペースの都合により1紙/誌につき1人(カメラ別)、1番組につき1クルーでお願いします。
- 撮影希望者(スチール、ムービーとも)は、15:15までに取材受付にご集合ください。(カメラ位置は抽選で決定。ただし申込多数の場合は、抽選によって会場にお入りいただけない場合があります。ご了承ください。)

ギャラクシー賞贈賞式タイムスケジュール

- 16:30 開会、主催者挨拶
- 16:35 ギャラクシー賞CM部門、贈賞 「特別賞」「選奨」「優秀賞」「大賞」
- 16:58 ギャラクシー賞ラジオ部門、贈賞 「DJパーソナリティ賞」「選奨」「優秀賞」「大賞」
- 17:19 ギャラクシー賞報道活動部門、贈賞 「選奨」「優秀賞」「大賞」
- 17:33 第3回志賀信夫賞贈賞 マイベストTV賞第6回グランプリ贈賞
- 17:44 ギャラクシー賞テレビ部門、贈賞 「個人賞」「特別賞」
- 18:00 ギャラクシー賞テレビ部門、贈賞 「選奨」「優秀賞」「大賞」
- 18:25 閉会

第49回ギャラクシー賞取材申込書 Fax. 03-5379-5510

ギャラクシー賞贈賞式の取材を申し込みます。

会社名			
媒体名/番組名			
住所 〒			
担当者		Tel.	
Email		Fax.	
取材人数		スチールカメラ	あり なし
		テレビカメラ	あり なし



ギャラクシー賞の概要

◆歴史および概要◆

1963年、民放草創期のこの時期に、テレビとラジオの可能性、影響力に着目し、その発展には必ず“批評”の力が必要であると考えた評論家、研究者、ジャーナリスト、作家らの有志によって創設された放送批評懇談会。ギャラクシー賞は、志ある番組を掘り起こし、制作者たちの番組作りへの情熱に光を当てて顕彰することで現場を鼓舞し、番組の向上・発展を促すことを目的に、会の発足と同時に誕生した。民間の自主的意思を基盤として創設された放送賞の第一号である。表彰は1年単位で、今年で第49回（2011年度）。

ギャラクシーの名は、放送批評懇談会設立の核となった渋谷秀雄、内村直也、梅田晴夫そしてトロフィーをデザインしたガラス作家・岩田糸子らによって考案された。天の川、銀河の訳のほか、佳人・才子の華やかな群れという意味を持ち、放送界にきらめく才能を表すのにふさわしいものとして選ばれた。

◆賞の特徴◆

ギャラクシー賞設立時には、すでにいくつかの放送賞が存在したが、その多くは「コンクール用に盛装を凝らしたものを対象にした記念行事」（白井隆二）だった。白井らは、テレビやラジオが日常に根ざした媒体であることを強く意識し、年間を通じてテレビを視聴しラジオを聴いて番組を批評することを賞の大前提に掲げた。その志は49年を経た現在まで貫かれ、放送批評懇談会正会員の自主的な視聴活動が賞の土台となっている。

テレビ部門では、審査を担当する選奨委員により月評会（毎月）が開催され、月間賞が選出されている。ラジオ部門も月例会を持ち番組を論じ合う。これらの内容は毎月、月刊誌「GALAC／ぎやらく」に掲載される。こうした活動により、“放送の現在に向き合う賞”として独自の地歩を固めている。

◆賞の内容◆

テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の4部門制。テレビ部門は月間賞のほか、年2回参加作品募集を行い、両者をあわせた中から年間賞を選出。ラジオ、CM、報道活動は年2回参加作品を募集し、それに審査員の推薦作品を加えて選考し、年間賞を選出。

受賞枠は、＜テレビ部門＞大賞1、優秀賞3、選奨10、特別賞1、個人賞1、＜ラジオ部門＞大賞1、優秀賞3、選奨4、個人賞またはDJパーソナリティ賞1、＜CM部門＞大賞1、優秀賞2、選奨10、＜報道活動部門＞大賞1、優秀賞2、選奨3。ほか、周年には記念賞を設ける場合がある。

また、放送批評懇談会がNPOとなったことを記念して、第44回（2006年度）から視聴者が選考に参加するマイベストTV賞を新設した。

◆審査と表彰◆

時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ作品として普遍的な力量を備えていることの二点が選考の柱。放送批評懇談会正会員によって組織する選奨事業委員会が審査を担当。表彰式は、毎年6月初旬に行われる。受賞者には、銀河をイメージしたガラス製のトロフィーと表彰状が授与される。

第49回ギャラクシー賞入賞作品一覧

[2011年4月1日 ~ 2012年3月31日]

◎志賀信夫賞

植村伴次郎

◎マイベストTV賞 第6回グランプリ

「妖怪人間ベム」

日本テレビ放送網

◎ラジオ部門

- ※「浅川マキ〜ロング・グッドバイ」北陸放送
- ※「うんとこしょ、どっこいしょ〜株式会社「大宮産業」奮闘記」高知放送
- ※「久米宏 ラジオなんですけど」TBSラジオ&コミュニケーションズ
- ※「ラジオドラマ「鉄になる日」(小松左京著「日本アパッチ族」より) 毎日放送
- ※「ABC創立60周年記念ラジオ時代劇「元禄・堂島米市場登舞〜平成に近松の幽霊が甦る」朝日放送
- ※「J-WAVE SPECIAL VERMEER, 37STORIES〜光の王国」J-WAVE
- ※「SCHOOL OF LOCK! 「SCHOOL OF LOCK! ×高橋優「もうひとつの卒業式〜福島県 南相馬」」エフエム東京
- ※「ラジオドキュメンタリー「消えた月光仮面」」北海道放送

DJパーソナリティ賞

吉田尚記

「ミュ〜コミ+プラス」(ニッポン放送) パーソナリティとして

◎テレビ部門

- ※「テレメンタリー2011 “3.11”を忘れない①「続・命でんご〜津波と歩んだ人生」」岩手朝日テレビ
- ※「ETV特集「ネットワークでつくる放射能汚染地図〜福島原発事故から2ヶ月」」日本放送協会
- ※「鈴木先生」テレビ東京 「鈴木先生」製作委員会
- ※「NHKスペシャル「果てなき苦闘 巨大津波 医師たちの記録」」日本放送協会
- ※「世界が私を待っている〜前衛芸術家 草間彌生の疾走」日本放送協会 NHKエンタープライズ ホームルーム
- ※「それでも、生きてゆく」フジテレビジョン
- ※「階段のうた season4」TBSテレビ イースト・エンタテインメント
- ※「カルテットという名の青春〜太郎、マドカ、麻理子、大と歩いた1371日」BS朝日 テレビマンユニオン
- ※「死刑弁護人」東海テレビ放送
- ※「ハイビジョン特集「しあわせのカタチ〜脚本家・木皿泉 創作の“世界”」」日本放送協会 NHKエンタープライズ スローバンド
- ※「NHKスペシャル シリーズ原発危機「知られざる放射能汚染〜海からの緊急報告」」日本放送協会
- ※「世界の果てまでイッテQ! イモトが挑む南米大陸最高峰アコンカグア登頂スペシャル」日本テレビ放送網
- ※「ETV特集「花を奪る 石牟礼道子の世界」」日本放送協会 NHKプラネット九州
- ※「連続テレビ小説「カーネーション」」日本放送協会

特別賞

ETV特集「ネットワークでつくる放射能汚染地図」シリーズ

日本放送協会

個人賞

小泉今日子

木曜劇場「最後から二番目の恋」(フジテレビ)、連続ドラマW「贖罪」(WOWOW)の演技

◎報道活動部門

- ※「絆いわて「ふるさとには負けない!」キャンペーン」IBC岩手放送
- ※「市営散弾銃射撃場鉛汚染問題における一連の報道」伊万里ケーブルテレビジョン
- ※「オムニバス・ドキュメンタリー「3・11大震災 記者たちの眼差し」I~IV」TBSテレビ
- ※「キャンペーン“司法シリーズ”開かれた司法へ」東海テレビ放送
- ※「子どもを守れ! キャンペーン」日本放送協会
- ※「NNNドキュメント'11~'12「3・11大震災シリーズ」における計31本の番組制作と一連の報道活動」日本テレビ放送網

◎CM部門

- ※「AIC 得子ちゃん・オーダーーム シリーズ「得子ちゃん高田さん その1」「オーダーーム 石川さん その3」「得子ちゃん 店員さん」他 AIC 電通九州 VSQ
- ※「ACジャパン 震災臨時キャンペーン「サッカー一篇」」ACジャパン 読売広告社 オニオン
- ※「ACジャパン 地域キャンペーン あいさつの励行「こだまでしょうか」」ACジャパン 電通 葵プロモーション
- ※「カルチュア・コンビニエンス・クラブ 映画レンタル「OTONA TSUTAYA」」カルチュア・コンビニエンス・クラブ 博報堂 ロボット
- ※「グーグル 未来へのキオク「未来へのキオク Want篇」」グーグル 博報堂ケトル 博報堂 葵プロモーション
- ※「サントリーホールディングス 企業 シリーズ歌のリレー「見上げてごらん夜の星をA」「見上げてごらん夜の星をC」「上を向いて歩こうC」「上を向いて歩こうA」」サントリーホールディングス 歌でつなごうプロジェクト委員会 シンガタ goen 電通 博報堂 大広 読売広告社 電通アドギア ギークビクチュアズ 東北新社
- ※「サントリーホールディングス BOSSゼロの頂点 シリーズ「特報A篇」「評論家A篇」「取材B篇」「メイキングA篇」「ボスター篇」「テロップ篇」」サントリーホールディングス シンガタ 電通 MR_DESIGN ギークビクチュアズ
- ※「ソフトバンクモバイル 企業 白戸家「連続CM小説篇」」ソフトバンクモバイル シンガタ 電通 トレードマーク ギークビクチュアズ
- ※「東海テレビ放送 公共キャンペーン・スポット「食卓を守れ〜ニッポンの農力」」東海テレビ放送 電通中部支社
- ※「トヨタマーケティングジャパン 企業 シリーズFTDA「ReBORN篇」「出発篇」「宇都宮・餃子篇」「ヒッチハイク篇」「ハワイアンズ篇」」トヨタマーケティングジャパン シンガタ ワンスカイ 電通 トレードマーク ギークビクチュアズ
- ※「日本コカ・コーラ アクエリアス「AQエモーショナル Three Kings篇」」日本コカ・コーラ 電通 電通クリエイティブX
- ※「パナソニック LED電球シリーズ「探偵ルーメン1~5篇」」パナソニック 博報堂 ハット
- ※「ライオン 企業 歯ブラシ家族シリーズ「お兄ちゃん」「未来の家族」「息子と母親」」ライオン 電通 エンジンプラス

特別賞

三陸に仕事を!プロジェクト実行委員会 浜のミサガ「環」 岩手・宮城誕生篇
三陸に仕事を!プロジェクト実行委員会 仙台博報堂 ASTRAKHAN

●テレビ部門は上記ノミネート14本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨10本が選出されます。●ラジオ部門は上記ノミネート8本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨4本が選出されます。●CM部門は上記ノミネート13本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨10本が選出されます。●報道活動部門は上記ノミネート6本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨3本が選出されます。●最終選考の結果は、6月4日(月)開催「第49回ギャラクシー賞贈賞式」で発表、表彰されます。●テレビ、ラジオのノミネートは放送日順、CMは広告主企業名五十音順、報道活動は申込社(者)名五十音順に記載。

詳しい結果は6月6日(水)発売の「GALAC」2012年7月号に記載いたしますので、ご覧ください



第49回ギャラクシー賞 テレビ、ラジオ、CM、報道活動各部門 2011年度の傾向と選考経過

■テレビ部門■

委員長 上滝徹也

副委員長 川喜田尚

委員 石橋さや夏 岩根彰子 小磯亮 隅井孝雄 高村裕 田中早苗 戸田桂太 中町綾子
桧山珠美 藤田真文 吉田正樹

2011年度のギャラクシー賞テレビ部門には、上期129本、下期154本、計283本の応募が寄せられました。テレビ部門は年々増加の一途を辿っていますが、本年度は対前年比14%の急増となりました。BS、CS番組の参入以外では、次の二つが注目されるどころです。

一つは、3.11問題への取り組みで、応募の約四分の一が大震災、原発問題でした。3.11がいかに命と生活と地域に大きな衝撃をもたらしたか。テレビの本質的衝動が報道である限り、これは当然の結果と言えるでしょう。

次に、キー局エンタテインメントの応募増ですが、これまで「視聴率勝負」の自負をもっていたような、たとえば連続ドラマなどがギャラクシー賞の評価を求め始めています。現在のテレビ視聴状況を考えれば、これは番組評価のものさしを再考する契機ともいえる兆候ではないでしょうか。

応募番組283本、毎月の選考会で選ぶ月間賞48本（内2本は個人賞）を選考対象に、視聴、採点、投票、討議を何度も重ねた結果、ドキュメンタリー8本、ドキュメンタリードラマ1本、ドラマ3本、バラエティ2本、計14本の入賞が決まりました（『入賞作品一覧』参照）。

ドキュメンタリーのジャンルでは、やはり大震災、原発事故に関連する番組が選奨の焦点となりました。そして、その多くが国家や原子力村への根源的な問いを放つ調査報道として高く評価されました。特別賞の「ネットワークでつくる放射能汚染地図」シリーズは、そういった一連の評価を代表する意味あいをもつ贈賞です。

また他のドキュメンタリーも、司法の根本を問うものであったり、人の心の内や葛藤を凝視するものであったりと、秀作が揃っていました。

ドキュメンタリードラマについては斬新な方法論、ドラマについては脚本、演出、演技の一体感と完成度、バラエティについてはタレントとスタッフの一体感をもたらす感動に多くの支持が集まりました。こうしたテレビ娯楽の創出がその可能性を切り拓くものであることは言うまでもありません。

（上滝徹也）



テレビ部門特別賞

「ネットワークで作る放射能汚染地図」シリーズ

日本放送協会

福島原発の水蒸気爆発の三日後に避難指示区域に入り取材したシリーズ第1作は、政府・東電発表以外の情報がなかった当時の私たちに、現地の生の実情を知らせてくれました。検証の姿勢はその後も変わることなく、除染の効果や海洋汚染など、福島原発問題に常に独自の視点で迫ってきました。同時に、学界の主流ではないところで営々と続けられていた原子力・放射線研究のネットワークに光を当てたことも、このシリーズの功績です。

テレビ部門個人賞

小泉今日子

木曜劇場「最後から二番目の恋」(フジテレビ)、連続ドラマW「贖罪」(WOWOW)の演技

「最後から二番目の恋」では、45歳独身女性の心の揺れをしなやかでパワフルな日常の中に演じました。職場でも私生活でも自然体の輝きをもってその存在を見せています。「贖罪」では、娘を失った母の冷え冷えとしたまなざしの中に狂気の熱を伝えました。オムニバスで語られるストーリーをつなぎ、やがて自らも壊れゆく予感を静かな佇まいの中に感じさせました。

ドラマが生み出すストーリーや役どころに簡単にはのみ込まれてしまわず、瞬間瞬間の心象を演じ、強くも弱くもある女性の姿を見せて精彩を放ちます。現代を生きる女性の心を映して女優としての存在感を示しました。

<プロフィール>

こいずみ・きょうこ 1966年2月4日、神奈川県出身。81年の「スター誕生！」出演をきっかけに、82年「私の16才」で歌手デビュー。同年、ドラマ「峠の群像」(NHK)に出演。翌83年には「十階のモスキート」(監督：崔洋一)で映画デビュー。以降、アイドル歌手として次々にヒット曲を放ちながら、ドラマ、映画などに数多く出演。85年「少女に何が起ったか」(TBS)、89年「愛しあってるかい！」(フジ)、91年「パパとなっちゃん」(TBS)、2003年「センセイの鞆」(WOWOW)など、時代の空気を象徴するドラマに多数出演。また、01年「風花」(相米慎二)、05年「空中庭園」(豊田利晃)、07年「転々」(三木聡)、08年「グーグーだって猫である」(犬童一心)、「トウキョウソナタ」(黒沢清)など個性派映画監督との仕事も多い。12年1月には「贖罪」(WOWOW)、「最後から二番目の恋」(フジ)、「とんび」(NHK)とテレビの連続ドラマに出演が続いた。



■ラジオ部門■

委員長 桜井聖子

副委員長 高瀬 毅

委員 石原信和 木原 毅 黄 莉香 近藤倫章 さらだたまこ 武田三千代 田代勝彦
塚本 茂 原 きよ 深井教雄 ペリー萩野

上期 39 本、下期 25 本で年間 64 本と、ここ数年で最も多い応募が寄せられた。東日本大震災関連の番組が多く、レギュラー枠(一部構成/スペシャル)、特別番組やイベント連動までとドラマ以外の各部門で複数本あり、特に下期の報道・ドキュメンタリーでは、7 本中 5 本あった。審査会では、ワイドは日常の中でどう展開したか、特番では新しい切り口など震災から半年、さらには 1 年という時間の経過より厚みをどう表現したのか、また局や制作者の意図の明確さなどを討議した。

制作者の想いは汲み取れるものの、深く斬り込んだ内容は少なく、震災関連で入賞は 1 本のみとなった。他、ソーシャルメディアとの連動、地域性、企画力や取材力などが光る多彩な番組が並んだ。

以下、各部門の応募数と入賞作品。

生ワイド部門 I・II の応募は 17 本。

福島県立原町高校の 3 年生達との卒業式ライブとメッセージが見事に融和した「SCHOOL OF LOCK！」(TOKYO FM) と、リスナー 8 人に電話を繋ぎ生放送でラジオドラマに挑戦という“ラジオで遊ぶ”可能性を感じさせた「久米宏ラジオなんですけど」(TBS ラジオ) が入賞。どちらもレギュラー枠の中のアイデアと展開力に重点がおかれ高い評価となった。

音楽&エンタテインメント部門の応募は 16 本。

企画番組が多くあるなかで、如何に楽しませたかと、構成力がポイントとなり、音声のみで絵画という視覚に訴える世界の魅力を伝えた「VERMEER, 37STORIES~光の王国」(J-WAVE) と、浅川マキの心の軌跡を丁寧にたどり、幻の曲の発掘も見事だった「浅川マキ~ロング・グッドバイ」(北陸放送) が入賞。

ドラマ部門の応募は 13 本。

今期は聴きごたえのある充実した作品が並んだ中、小松左京の「日本アパッチ族」を題材に丁寧な音づくりと現代の閉塞感を垣間見させる構成が光った「鉄になる日」(毎日放送) が抜きに出た。次に、地元局ならではの作品で討議となり、元禄時代の堂島米市場を舞台に人間模様を見事に描いた「ラジオ時代劇 元禄・堂島米市場蜚舞」(朝日放送) が入賞。

報道・ドキュメンタリー部門の応募は 18 本。

丹念な取材力が光った作品が肩を並べ、選出は困難を極めた。まず、司法界のひとり人物の生涯を関係者の証言、ニュースや音楽が三位一体となって展開していく構成力と制作者の意図が明確に表現された「消えた月光仮面」(北海道放送) を選出。次に討議を重ねた結果、住民出資の物販会社を取材し住民の声を存分に伝えている「株式会社「大宮産業」奮闘記」(高知放送) が選ばれ、ドキュメンタリーの 2 本が入賞した。

(桜井聖子)



ラジオ部門DJパーソナリティ賞

よしだひさのり 吉田尚記

「ミュ〜コミ+プラス」(ニッポン放送) パーソナリティとして

局アナの枠にとらわれない吉田尚記の喋りは、10代ならずともグイグイとその世界に引っ張り込まれてしまいます。生放送の臨場感あふれる言葉の出し入れと緩急つけたテンポ感の妙、リスナーの巻き込み力に目を見張ります。それは日頃から現場に足を運び、実際に見て、聞いて、味わって、空気を吸って、感じて、それが自ずから言葉となって表現されるいるからです。

日本初の twinavi 公認アナウンサーとしてもその才能を発揮。ラジオだけに留まらず、アニメやゲーム業界での活動も吉田の大きな財産となっています。また、ビッグコミックスピリッツ掲載の漫画「ラストイニング」全国高校野球県予選決勝「聖母学苑×彩珠学院」の仮想実況番組を提案した企画力も評価に値します。

アナウンサーを超えた表現者～それが吉田尚記。次世代のラジオを牽引する喋り手として、これからの期待します。

<プロフィール>

よしだ・ひさのり

1975年12月東京都銀座生まれ、慶應義塾大学文学部卒業、99年ニッポン放送にアナウンサーとして入社。「オールナイトニッポン」「ミュ〜コミ」「熱血!! ラジカルチャー」「有楽町アニメタウン」「オールナイトニッポン Gold app10.jp」など数々の番組のパーソナリティを担当。音楽・マンガ・アニメ・アイドルなどのサブカルチャー、SNSに関してのパーソリティで各方面で幅広く活動中。2010年9月にはツイッター活用本「ツイッターってラジオだ!」刊行、マンガ大賞の発起人であり、実行委員。



■ CM部門 ■

委員長 五井千鶴子

副委員長 稗田政憲

委員 入江たのし 鈴木ゆかり 田家秀樹 田中典子 谷岡理香 本庄雅之 丸茂 巧
茂出木龍太 諸橋泰樹 山川浩二

第49回ギャラクシー賞CM部門は、上期（2011年4月1日から9月30日放送分）と下期（10月1日から2012年3月31日放送分）の2回にわけて募集された応募作品によって入賞作品が選ばれる。上期応募作品はその放送の時期からいって当然のことながら、震災復興をテーマにした作品群が圧倒的多数をしめた。絆・おもいやり・励まし・祈りといった日本人のところに寄り添う表現がCMの本流を貫いていた。対照的に、下期応募作品は本来の広告の役割であるビジネスと直結する表現のCMが大多数であった。震災後、なすすべもなく立ちすくんでいた時期を乗り越えて、復興の狼煙はテレビCMからはじまったといっても過言ではないだろう。

応募作品は上期120本、下期135本、通年では255本（シリーズも一本としてカウント）もの応募があった。前年と比較すると、若干の応募減があったが、テレビの画面からCMがほとんど消えた期間があったことを考慮すれば、まずまずの応募数であったといえる。応募された関係各位の皆様には感謝したい。

最終的には上期ノミネート作から8本、下期ノミネート作から5本と特別賞1本が入賞した。上期応募作品のほうから入賞作品が多いのは、大変な時期に大変な思いをして制作に携わったであろうクリエイター諸氏の熱意と迫力が選奨委員のころを掴んだからに他ならない。はからずも第49回ギャラクシー賞CM部門の選奨は、テレビCMの表現と役割の多様性を考えさせられる年度となった。

入賞作品をご紹介します。

A I C したたかであざとく、まさにこれぞ15秒というお手本のシリーズ。企画の勝利。

A Cサッカー 日本全体に元気と勇気をくれた。腕の喪章とユニフォームのメッセージ。

A Cこだま リンとした存在感。ことばは人のところを支えると金子みすゞは実証した。

TSUTAYA 名画のシーンを身体で再現するご老人たちの表情がいい。映画の楽しさ満載。

グーグル 震災で失われた地域の風景やイベントを投稿映像で残そうとする壮大な試み。

サントリー 歌のリレー 豪華メンバーが歌い継ぐ名曲。歌の力を世に知らしめた。

サントリー BOSS スピード感溢れスキのない映像。幸四郎・松たか子の卓抜した演技。

ソフトバンク 白戸家のひと夏の出来事。意表をつくキャスティングに面白さ全開。

東海テレビ ニッポンの農力を考えさせる好企画。単刀直入に問題点を浮かび上がらせた。

トヨタ ReBORNした信長キムラと秀吉たけし、お市マツコが東北へFUN TO DRIVE, AGAIN。

コカ・コーラ 世界的アスリートたちが本業以外のスポーツに挑戦する姿が斬新で清々しい。

パナソニック LED電球について解説したナゾ説きドラマ。消費者のためになっている。

ライオン 人格を持った歯ブラシたちの会話劇。さりげないやりとりに人生の機微がある。

はてさて、これらの作品の中から大賞と優秀賞はどの作品に？ 満票の支持があった作品があることを付記しておく。

(五井千鶴子)



CM部門特別賞

浜のミサンガ「環」

三陸に仕事を！プロジェクト実行委員会

東日本大震災で被災した浜の女性たちに仕事を創った。漁の網を使って作るミサンガ、仮設住宅でできる手仕事である。浜の女性 298 人が参加。浜のミサンガ 1100 円。2012 年 2 月末までに 8 千数百万円を売り上げ、その収入は彼女たちの手にわたったという。

仕事を通じて笑顔が戻った三陸の女性たち…。♪さあ歩きましょう～のスローなメロディにのせて、女性たちの笑顔がはじける。この取り組みをドキュメンタリーで追った秀逸な作品である。



■報道活動部門■

委員長 碓井広義

副委員長 市村 元

委員 今村庸一 小田桐誠 加来由子 兼高聖雄 鈴木典之 鈴木嘉一 中村正敏
堀木卓也 宮前周司

SNSをはじめとする新たなメディアとの関係も含め、放送を通じた報道活動はどうあるべきか。そんな課題に対する模索も各地で行われている。非常時はもちろん、平時においても信頼され、必要とされるメディアであろうとする時、報道活動の役割は一層大きくなる。

ギャラクシー賞報道活動部門の狙いは、単一の番組では完結しない、収まりきらない取り組みを評価することにある。対象となるのは同じ番組内での連続報道、複数の番組にまたがる調査報道、系列の枠を超えた連携報道、イベント等とも連動したキャンペーン報道などだ。

今年度の応募総数は22本。昨年3月11日に発生した東日本大震災やその後の原発事故に関連した複数の報道活動はもちろん、全体として実に充実した内容だった。入賞作品は以下の通りだ。

IBC岩手放送 絆いわて「ふるさととは負けない！」キャンペーン

地震発生と同時に緊急自家発電に切り替え、放送を継続したIBC岩手放送。その取り組みを支えたのは「今、誰のために、何を伝えるべきか」という真摯な問い掛けである。

伊万里ケーブルテレビジョン「市営散弾銃射撃場鉛汚染問題における一連の報道」

地元の射撃場の銃弾による鉛害。農作物を獣害から守る猟銃使用。おざなりな両論併記ではなく、「同じ地域に暮らす私たちの問題」として丹念に取材を重ね、伝えている。

TBSテレビ オムニバス・ドキュメンタリー「3・11大震災 記者たちの眼差し」I～IV

列各局の記者たちが自分の目で見て、肌で感じたものを伝え続けた。そこには「伝える者」の迷いも含まれる。報道における一人称の意味を問う、地道な取り組みでもあった。

東海テレビ放送 「キャンペーン“司法シリーズ”開かれた司法へ」

「名張毒ぶどう酒事件」の再検証から始まるシリーズは、裁判所、検察庁、弁護士、死刑制度のあり方を問うだけでなく、犯罪被害者・遺族の思いにもスポットを当てた。

日本放送協会 「子どもを守れ！キャンペーン」

子どもを取り巻く環境と、その改善を目指す事例を多角的に伝えた。またホームページ開設やドラマ制作を通して、視聴者とともに解決策を探り続けた。

日本テレビ放送網 NNNドキュメント'11～'12「3・11大震災シリーズ」における計31本の番組制作と一連の報道活動

系列各局による計31本の取り組みは、質量共に民放の震災ドキュメンタリー分野をリードするものとなった。また映像記録集積としても大きな実績を残した。

(碓井広義)



放送批評懇談会 第3回志賀信夫賞 植村伴次郎

<志賀信夫賞選考委員会>

委員長 音好宏

選考委員 橋本隆 上滝徹也 小田桐誠 藤田真文

「志賀信夫賞」は、志賀信夫前理事長の長年にわたる放送批評活動の功績を記念して創設されました。番組制作にとどまらず、放送局やプロダクションの経営、業界の新たな仕組み作り、放送メディアや視聴者・リスナーに関する研究・調査、批評活動など幅広い業績を対象にしています。広く放送文化、放送事業の発展に顕著な貢献をした個人を顕彰することが目的です。

当会の正会員から推薦候補者を募り、理事会で選任された5名の委員で構成する選考委員会が、推薦された候補者をもとに、最もふさわしい受賞者を決定します。

3回目となる今回は、選考委員会で慎重、かつ、多角的な討議を重ねた結果、植村伴次郎氏を全会一致で選出しました。

現在、株式会社東北新社最高顧問を務める植村伴次郎氏は、1961年に東北新社を設立。外国テレビ映画の日本語吹替業を皮切りに、海外からの番組購入、CM制作、映画制作、番組制作と広く映像制作事業に関わり、日本の映像業界の発展に寄与してきました。また、ケーブルテレビの自主放送チャンネルが拡大し、多チャンネル化が進む過程で、ケーブルテレビに向けた番組供給業の確立に尽力するとともに、CS放送の登場にあたっては委託放送事業にも参画。日本における専門多チャンネル放送の発展に多大な貢献をされました。

その間、日本音声製作者連盟・会長、衛星放送協会・会長などを務められ、業界全体の発展にリーダーシップを発揮されました。

植村氏のお仕事は、地上テレビ放送が中心的な担い手となって牽引した日本のテレビ文化を下支えしつつも、地上テレビ放送とは異なるチャンネルごとの特色をより一層際立たせた専門型放送サービスの成長の道をも切り開いてきたことに他ならず、トータルとして、日本のテレビ文化、映像文化の多様性を推進した功績は多大です。

日本の放送事業、映像事業における長年にわたる多方面での植村伴次郎氏の活動は、「志賀信夫賞」にふさわしいと考え、ここに顕彰いたします。

<プロフィール>

植村伴次郎 うえむら・ばんじろう

1929年3月30日生まれ。1961年4月1日株式会社東北新社設立、代表取締役社長（2003年6月26日まで）、代表取締役会長（2009年6月25日まで）を経て最高顧問（現職）。オムニバス・ジャパン、二番工房、スター・チャンネルなどの代表取締役社長を歴任。

日本音声製作者連盟会長、BSデジタル放送推進協会理事、日本アド・コンテンツ制作社連盟副理事長、衛星放送協会会長、デジタルコンテンツ協会副会長、社団法人日本ケーブルテレビ連盟理事、日本音楽財団理事などを務め、業界の発展に貢献した。

2012年5月30日、旭日小綬章受章。



「志賀信夫賞」について

■放送批評懇談会が2013年に設立50周年を迎えるに先立ち、会の設立から発展に貢献のあった日本の放送批評のパイオニア志賀信夫氏（現名誉会長）の長年にわたる放送界への功績を記念して、志賀信夫賞を新設することとしました。

■本賞は、これまでのギャラクシー賞が受賞対象とする番組制作という枠にとどまらず、広く放送の発展に貢献する大きな業績を成し遂げた個人を表彰します。したがって番組制作だけでなく、放送局やプロダクションの経営、番組制作の支援や放送周辺の分野、放送を中心とするメディアに関わる研究や批評活動など、幅広い分野で近年大きな功績のあった方々を顕彰し、放送の更なる発展に役立てる意図があります。

■志賀信夫 しが・のぶお／放送評論家。1929（昭和4）年福島県生まれ。53年早稲田大学大学院文学研究科修了。57年同大学講師。60年放送評論家として独立。63年放送批評懇談会の設立に参加、理事、78年同理事長。79年共立女子大学講師。81年メディアワークショップ代表理事。85年ビデオ映像文化振興財団理事。90年多摩大学講師。NAB（全米放送事業者協会）東京セッション実行委員会会長、文化庁芸術祭審査委員、NHK演出審議委員等を務める。「デジタル時代のパイオニア」（源流社）、「BS/CS衛星放送新時代」（電波新聞社）、「映像の先駆者125人の肖像」（NHK出版）など著書多数。自薦の優れた番組の評論を記録し、関係者の証言を集めるなどした「年間テレビベスト作品」を30年にわたり出版。2003年には、テレビ評論の分野で初めて芸術選奨を受賞。



視聴者参加型のギャラクシー賞

ギャラクシー賞マイベスト^{テレビ}TV賞 グランプリ決定！

マイベストTV賞第6回グランプリ

日本テレビ「妖怪人間ベム」

視聴者の評価、満足や感動の気持ちを、投票によって形にしたマイベストTV賞。「妖怪人間ベム」には、「原作アニメの雰囲気を変えずに現代に置き換えてなおも完成度の高いドラマ」「毎回見終わると勇気が湧いてくる。明日も頑張ろうという気持ちになれる」「人として生きること、人とのつながりを教えられた」「メインの3人がすごく魅力的」といった投票者の絶賛の声が数多く寄せられた。映像化は困難と思われたアニメ原作を見事にドラマ化。主演の亀梨和也をはじめとするキャスティングも絶妙。生きることの意味や幸せとは何かを真摯に描き、視聴者から高く評価される形となった。

解説

マイベストTV賞に参加したWeb会員は、5月14日現在で4,414名。これに放送批評懇談会の正会員182名が加わった計4,596名がグランプリ作品の投票に参加。さらに今年度はYahoo! JAPAN/GyaO! と協力し、GyaO! に設けられた特設ページからYahoo! JAPAN IDを使用したグランプリ作品の投票も同時に行った（GyaO! の投票者は2,481名）。

グランプリは、2011年4月度から2012年3月度まで投票によって毎月決められたノミネート作44本の中から、最大5本までを投票するという方法で決められた（ただし、GyaO! の特設ページからの投票は1人1本のみ）。

937票を獲得しグランプリに選ばれたのは、日本テレビの「妖怪人間ベム」。“震災のあった年にこれほど人に優しい作品は他にない”“日常のさり気ない生活がいかに幸せなことを改めてわからせてくれた”といったコメントが寄せられるなど、投票者の幅広い支持を得る結果となった。

第2位はNHKの「若冲ミラクルワールド」。“スーパーハイビジョンカメラを用い、伊藤若冲の精密なタッチをわかりやすく解説してくれた”“大野の若冲を好きな気持ち、尊敬する気持ちが画面越しに伝わってきた”など、嵐の大野智を通して若冲の魅力を知った方からの支持を集めた。

第3位はTBSの木曜ドラマ9「最高の人生の終り方・エンディングプランナー」。“死を扱った難しいテーマだったが、全編を通して家族愛が描かれ、見終わった後に清々しい感動が残った”“山下智久と山崎勉の二人の掛け合いは最高”といった感想が寄せられた。

ベスト10の中でジャニーズ事務所のタレントが出演している番組が9本を占めたが、単に好きなタレントが出演しているから票を入れるのではなく、感動した番組、テーマに共感した作品、質の高い番組に票が集まる結果となった。そんな中で“朝ドラ”の枠を超え、高い完成度を誇った「カーネーション」が第7位にランクインしたことは、投票者の的確な批評眼がうかがわれ、特筆に値する。

また、Yahoo! JAPAN/GyaO! と協力してグランプリの投票を行ったことにより、より幅広いテレビファンの声を集めることができた。



最終投票結果

第1位	妖怪人間ベム（日本テレビ）	937票
第2位	若冲ミラクルワールド（NHK）	652票
第3位	木曜ドラマ9「最高の人生の終り方・エンディングプランナー」（TBS）	644票
第4位	YAMASHITA TOMOHISA ROUTE66 たった一人のアメリカ（日本テレビ）	505票
第5位	怪物くん完全新作スペシャル（日本テレビ）	383票
第6位	もう誘拐なんてしない（フジテレビ）	376票
第7位	連続テレビ小説「カーネーション」（NHK）	283票
第8位	日曜劇場「南極大陸」（TBS）	251票
第9位	ラッキーセブン（フジテレビ）	248票
第10位	プロフェッショナル 仕事の流儀 SMAPスペシャル（NHK）	237票

参考

★どんな賞？

「ギャラクシー賞マイベストTV賞」は、放送批評懇談会がNPO（特定非営利活動法人）になったことを節目として2006年に創設されることになりました。NPOとして、放送と市民との橋渡しとなるような活動を強化したいと考えたからです。放送局が送り出すたくさんの番組たち。果たして視聴者はどんな番組を評価し、どんな番組を愛好しているのでしょうか。放送局や放送の作り手には、視聴者の声は届きにくいのが現実です。とくに、「よかった」「素晴らしかった」といった推奨の声はなかなか形になって表れません。

視聴者の評価の声を形にしたい、視聴者の気持ちを放送局や制作者に届けたい——そんな思いから生まれたのが、「ギャラクシー賞マイベストTV賞」です。

日本に初めて誕生した、視聴者がだれでも自由に参加できる本格的な番組賞です。

★賞の本数、対象年度

ギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリ 1本

年度（4月～翌年3月）ごとの日本国内で放送されたテレビ番組が対象

★賞の仕組み

審査員は放送批評懇談会正会員、Web会員。選出は放送批評懇談会ホームページの投票で行う。

毎月の候補番組は放送批評懇談会選奨事業委員会テレビ部門が制定。

会員は毎月1回、IDとパスワードで投票ページに入室し、候補番組の中から3本まで選んで投票。

得票の多かった3本が月間ノミネート番組に選出される。（投票の経過・結果はWebで発表）

会員は毎年4月、12か月のあいだに選出された月間ノミネート番組から、年間のベスト番組1本を選んで投票。この年間のベスト番組投票で、もっとも多くの支持を獲得した番組1本が、＜ギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリ＞に選出される。第6回グランプリの投票では、Yahoo! JAPAN/GyaO! と協力し、GyaO! に設けられた特設ページからも同時に投票を行った。

【株式会社GyaO】

日本最大の無料映像配信サイト「GyaO!」と有料映像販売サイト「GyaO!ストア」を運営。人気の海外ドラマからアニメ、音楽、映画、お笑いなど見逃せないタイトルや新作が毎日続々と登場。「GyaO!」においては、約1万8千本以上の映像を全て無料でお楽しみいただけます。また、「GyaO!ストア」においては、約3万5千本以上の映像を販売しております。またパソコンだけでなく、スマートフォンやインターネットテレビでも人気のタイトルを配信する「マルチデバイス」対応も行っており、毎月約1900万人のお客様が約1億2千万回もの映像再生を行っています。



NPO/特定非営利活動法人 放送批評懇談会

JAPAN COUNCIL FOR BETTER RADIO AND TELEVISION

■創立 NPO放送批評懇談会=2005年5月2日(任意団体放送批評懇談会=1963年4月)

■会勢 正会員182名 維持会員132社

■役員

名誉会長=清水英夫 理事長=音好宏

専務理事=橋本隆(総務担当) 常務理事=上滝徹也(ギャラクシー賞テレビ部門委員長)、小田桐誠(選奨事業委員長)、藤田真文(企画事業委員長)

理事=丹羽美之(出版編集委員長)、桜井聖子(ギャラクシー賞ラジオ部門委員長)、五井千鶴子(ギャラクシー賞CM部門委員長)、碓井広義(ギャラクシー賞報道活動部門委員長)、滝野俊一(マイベストTV賞プロジェクトリーダー)、飯田みか、石井彰、市村元、入江たのし、兼高聖雄、川喜田尚、隈部紀生、河野尚行、坂本衛、嶋田親一、稗田政憲、山田健太、中島好登(事務局長)

監事=田代勝彦 原由美子 名誉会員=志賀信夫

■目的および事業

広く一般市民を対象として、視聴者と放送局・放送制作者が手を携え、放送に関する公平・中立な批評活動等を行い、豊かで優れた番組の創造および放送文化の振興を図り、市民が正確で信頼できる情報を享受し、市民の生活文化の発展に寄与することを目的とする。

■主な活動

放送の専門誌 [GALAC/ぎゃらく] の編集・発行

放送批評の育成・振興を目的に、放送や番組を様々な角度から問題を取りあげ、研究するテレビ・ラジオの専門誌。番組批評のパイオニア。1967年創刊の「放送批評」誌をリニューアルして、97年5月創刊。

日本を代表する番組賞 [ギャラクシー賞] の選定・表彰

本会創立と同時に1963年に設立された番組賞。審査には本会正会員自身があたり、月間で定例会を持つなど日常性を重んじた丹念な選考作業が特徴。毎年4月から翌3月が対象。テレビ、ラジオ、CM、報道活動の四部門制。それぞれ大賞、優秀賞、選奨、特別賞などを選出。個人賞、DJパーソナリティ賞は個人に贈られる。

視聴者参加型 [ギャラクシー賞マイベストTV賞] の運営・表彰

本会がNPOになったのを記念して誕生した、視聴者が視聴者の手でベスト番組を選ぶテレビ番組賞。毎月投票でノミネート番組を選び、年間で一本を選出。初のグランプリはNHK「ハゲタカ」に贈られた(2006年度)。2012年、ポータルサイト最大手のYahoo! JAPANとのコラボレーションが成立。Yahoo! JAPAN IDでもグランプリ投票が可能になり、視聴者賞として大きな飛躍を遂げる。

[放懇シンポジウム/放懇セミナー] の企画・開催

激変する放送事情に対応すべく、その時々に関心事をテーマに、当事者、専門家、研究者とともに放送を考える場を提供し、放送界に積極的な提案、提言を行なう。